

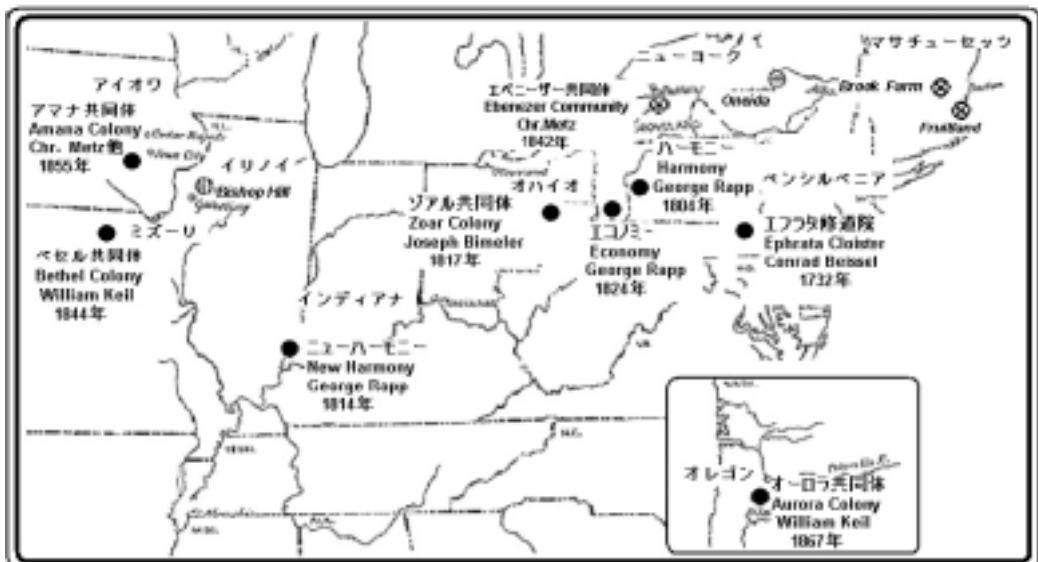
# アメリカ合衆国におけるドイツ系移民によるユートピア共同体

長友雅美

## 0. はじめに

18世紀半ばから19世紀前半にかけて、アメリカ国内には様々なユートピア共同体が生まれ、規律正しい共同生活と富の分配を試みた。ドイツ系移民の共同体<sup>1)</sup>としては、コンラット・バイセル創設のエフラタ修道院、ゲオルグ・ラップによるハーモニー協会、ニューハーモニー協会、エコノミー共同体、ウィリアム・カイルによるベセル共同体とオ・ロラ共同体、ヨゼフ・ビメラーによるゾアル共同体、クリスチャン・メッツによるアマナ協会などのキリスト教分派による宗教共産共同体がある〔下図参照\*〕。この他、ミズーリ州やテキサス州には短命ではあったが「ラテン語を理解する農民たち Latin Farmers」による共産共同体も誕生した。彼らが望んだ「ユートピア的共同体」の試みが何故に長続きしなかったかに関する論議は別の機会に譲ることとし、この研究ノートでは、わが国ではあまり知られていないこれらドイツ系移民による共産共同体の動きを俯瞰することにした。<sup>2)</sup>

## 1. 宗教的共同体



\* これは Alis Felt Tyler: Freedom's Ferment. Phases of American Social History to 1860. University of Millestota Press 1944. 113頁に掲載されている様々な「ユートピア共同体」を示した図をもとに、ドイツ系移民の共同体を明示するために論者が作成した。

### 1.1. エフラタ修道院〔ペンシルベニア州〕

コンラッド・バイセル (Johann Conrad Beissel:1691 - 1768) によるエフラタ修道院は、アメリカの最も初期の宗教共同体のひとつである。ネッカー河畔のエーバーバツハ〔Eberbach ハイデルベルク北東約22kmに位置する〕に生まれ、幼くして両親を失い姉妹によって育てられたバイセルは、神秘論者への道を歩み、ハイデルベルクで多くの敬虔主義者とともに投獄された体験も持つ。

1720年に友人とともにボストンに上陸、ドイツ系移民が多住するフィラデルフィア近郊のジャーマンタウンで、ブレザン派教区長ピーター・ベッカー (Peter Becker : 生没年不詳) のもと、織工見習となり、1724年に、ドUNKER<sup>3)</sup>、信心深いドイツのメノナイト分派、再洗礼派ブレザン Brethern 教徒に改宗した。だが教区長と意見が対立し、数十名のブレザン教徒とともに、ランカスター郡 (Lancaster County) のコネスターガ Conestoga<sup>4)</sup> 地区に移り、同地区の信徒代表に就任した。祈りによる自己の神秘体験を既存の宗派とは異なった生活で実践したいという希望を抱き始めたバイセルは、1732年、粗衣粗食と黙想生活を最優先する新しい僧院共同体をココリコ川 Cocalico Creek 沿いに組織した。これが「エフラタ修道院 Ephrata Cloister」と呼ばれる共同体である。

独居生活を続けながら聖書研究に勤しむ間に、週初日の日曜日ではなく、第7日の土曜日が礼拝日として重要であることを確信するようになったバイセルは、自己の信念を証明するため様々な本を出版した。ドUNKER派教徒は彼の教義を認めようとはしなかったが、バイセルに共鳴した人々がしたい集まり数十年の間にその数は300名ほどに達した。

バイセルと彼の従者は、キリスト教に基づく兄弟愛と菜食・独身主義を原則【望ましいとされたものの強制的ではない】とし、成文化した会則・入会契約はないものの、新約聖書のみを信仰のより所とし、原罪の教義、暴力と戦争を否定し、禁欲的であった。この修道院の人々【エフラティスト Ephratist】は、独身婦人会員のために「姉妹の家 Saron シャロン」を、剃髪し髭を蓄えた独身男性会員のために「兄弟の家 Bethania ベタニア」を建てた。<sup>5)</sup> また院内最大の、「ミーティング・ハウス」と呼ばれる木造建築物内の礼拝堂では、バイセルが作曲した独特の単旋律の礼拝歌が会員によって日々唱和されていた。

修道院では農業従事者、大工、左官の他に、製紙工、植字工、印刷の専門家が働いていた。とくに印刷の分野ではペンシルベニアのドイツ文化に大きな影響を与え、わけても装飾用に手書きされた「ドイツ文字 (フラクトゥーア印字体)」の文書は広く知られ、今日では好事家の収集対象物となっている。

修道院生活にとって音楽が重要な役割を果たすことを知っていたバイセルは数百の礼拝歌<sup>6)</sup>を同僚とともに作曲した。なかでも1747年に公式の礼拝歌集として修道院内の印刷工房で製作され、日々の礼拝集会で用いられるようになった全495頁の『孤独な見捨てられし雉鳩、キリスト教会の歌』と1768年出版の『天上の奇蹟』<sup>7)</sup>は、歌詞がすべてドイツ語であった。この印刷工房は修道院生活のための印刷物に止まらず、多くの出版物を手がけ、この修道院を持つエフラタはジャーマン

タウン、フィラデルフィア、ランカスターともに、18世紀にはペンシルベニアにおける4大印刷中心地として名を轟かせた。

1768年にバイセルが亡くなると、ピーター・ミラー（Peter Miller:1709 - 1796）が<sup>8)</sup>後を引き継いだ。修道院の運営は上手くいかなくなり、しだいに独身主義も崩壊、1900年には会員数はわずか19名になっていった。1920年代末からの大恐慌時代には広大な敷地



【現在は史跡博物館となっているエフラタ修道院・論者撮影】  
アメリカの独立革命（戦争）時代には、負傷した独立革命軍の野戦病院となった。

を持つこの修道院の運営が困難となり、建物と広大な敷地を手放さざるを得なくなってしまった。

1941年、修道院は大規模な保全修復作業の後、ペンシルベニア州政府の歴史美術館委員会の管理下に入り、その後合衆国の歴史的記念建造物の指定を受け、博物館として保存されている。修道院に残された礼拝歌の楽譜は通常の楽譜に再編され【一部ピアノ伴奏譜も付け加えられ】、それをもとにペンシルベニア歴史協会が組織した「エフラタ修道院合唱団 Ephrata Cloister Chorus」が毎年数回のコンサートをおこなっている。

## 1.2. ハルモニー、ニューハルモニー、エコノミー

18世紀末、南独ヴェルツブルク付近に住むルター派教徒のなかには、教会組織の理性主義に対する疑念を懐く人たちがいた。当初彼らは教会内での改革運動を望み、活動を続けていたが、こうした彼らの改革は聖職者の反感を買い、思うように進まなかった。こうしたなか、イプティンゲン〔Iptingen シュトゥットガルト北西約25kmに位置する〕で葡萄栽培に従事していたジョージ・ラップ（George Rapp:1757 - 1847）〔ドイツ名：ヨハン・ゲオルグ・ラップ Johann Georg Rapp〕は、17世紀の神秘論者ヤコブ・ベーメ（Jakob Boehme:1575 - 1624）の著作や再洗礼派の考えに鼓舞され、祈りを通し個人が直接神の存在を体感することを確信するようになった。ラップに同調した人たちは教会から脱退し、1785年頃には宗派運動となっていった。だがこうした新宗派を組織し活動することは既存教会の権力否定となり、同時に教会権力の背後にある領主制度の否定を意味した。しかし権力機構に逆らうだけの政治力を持たず、武力否定の立場をとるラップは、アメリカに新天地を求め、新しい形の宗教共同体を建設することを決断、1803年、息子のヨハネスと2人の友人とともに大西洋を渡りボルチモア港に上陸した。「ハーモニー協会 Harmony Society」という名の組織を結成し、しばらくボルチモアとフィラデルフィアで説教活動を続けた。その後、ピッツバーグ北方〔ペンシルベニア州西部バトラー郡 Butler County〕に5千エーカーの土地を確保、翌年にはラップ

に共鳴した〔ラッピスト Rappist と呼ばれる〕人々が次々と移住した。土地を切り開き、道路を整備し、共同礼拝所と居住区を作り、1805年、キリスト教共産主義の「ハーモニー共同体 Harmony Community」が誕生した。ドイツ系移民だけで組織されたこの共同体での日常語は当然ドイツ語であった。既婚者もいたが、この共同体では独身主義が原則で、財産共同管理と富の公平分配の方針が貫かれた。

1814年、「ラッピスト」たちはさらに、インディアナ州南部ポーセイ郡 (Posey County) ワオバシユ Wabash 川付近に3万エーカーの土地を取得し定住し、その地を「ニューハーモニー New Harmony」<sup>9)</sup>と名づけた。指導者のラップは伝染病と近隣の人々との折り合いの悪さから、わずか10年ほどで、再び新しい土地を求め、ピッツバーグの北約17マイルのオハイオ川に面した場所〔ビーバー郡 Beaver County〕に、「エコノミー Economy」という名の3番目の共同体を建設した。ラッピストたちが退去したニューハーモニーは、1825年に英国人口バート・オーエン (Robert Owen:1771 - 1858) が引き継ぎ、自己の社会改革思想に基づき理想共同体の建設を試みた。だが資金面で経営破綻、わずか一年で失敗してしまった。それでも「エコノミー共同体」は、石油を発見し、しばらくは栄えたが1905年には完全に消滅した。ジョージ・ラップは1847年8月7日、90歳で亡くなった。

### 1.3. ゾアル共同体〔1819年から1898年まで〕

ゾアル〔Zoar オハイオ州クリーブランド南約60マイルに位置する〕は、宗教上の迫害を逃れた200名ほどのドイツ人宗教分離主義者の一団によって1817年に開拓された。この集団を率いていたのが、南独ヴェルテンベルク公国の小村メルクリンゲン〔Merklingen ウルム北西約30Kmに位置する〕出身のキリスト教分離主義者ヨゼフ・ビメラー〔Bimeler ドイツ名はヨーゼフ・ボイムラー (Joseph Michael Bäumlér:1778 - 1853)〕である。

ビメラーは取得したオハイオ州北部のトスカラワス Tuscarawas 川沿いに5000エーカーほどの土地をめぐし1817年10月16日に入植し、その場所を旧約聖書の創世記【19章23 - 30】に因んでゾアルと名付けた。ビムラーを指導者として、1819年4月19日、53人の男性と104人の女性による署名をもって正式に「ゾアル分離主義者協会 The Society of Separatists of Zoar」が組織された。1827年、「オハイオ・エリー運河」の一部が彼らの開拓地を通ることとなった時、「ゾアル共同体」は開拓地の一部を売却した。1800年代半ばには自給自足のこの共同体の名は広く知られ、多くの人々がこの「小さなドイツ人村」を見学に来るようになっていった。だが共同体外部との接触が増加するにつれ、【ゾアライト Zoarites と呼ばれる】共同体会員のなかにはこれに不満を持つ者が増加、1853年にビムラーが亡くなると、しだいに共同体の運営が困難となり、80年ほども続き、一時期は500名もの会員数を誇ったゾアル共同体は、1898年に資産を売却し解散してしまった。

#### 1.4. ベセルとオーロラ

1831年、ニューヨーク港に到着した同じ船に、後にアメリカ文化史上に名を残した二人のドイツ人がいた。「ベセル共同体」と「オーロラ共同体」を組織したウィリアム・カイル (William Keil:1812 - 1877)〔ドイツ名：ヴィルヘルム・カイル Wilhelm Keil〕と橋梁建築専門家のジョン・ローブリング (John A.Roebling:1806 - 1869)<sup>10)</sup>である。

北独ブライヒャーオーデ〔Bleicherode ハイリゲンシュタットから東方約35Kmに位置する〕生まれのカイルは、ピッツバーグで薬の行商や病人にたいする民間施療術を通し、いつの頃からか「ドクター」と呼ばれるようになり、1838年にはドイツメソジスト派に改宗しながら、祖国ドイツで体験した「敬虔主義」的な信仰に基づき、独自の共産主義生活共同体の建設が必要であると確信するようになった。1844年秋、カイルは共産主義キリスト教共同体の建設に着手するため、家族と数人の友人とともにミズーリ州北東シェルビー郡 (Shelby County) のノース川 North River 地区に入植し、ヘブライ語で「神の家」を意味する「ベセル」と呼ばれる共同入植地を建設した。やがてこの共同体の名が知れわたると、ペンシルベニア州西部とオハイオ州東部から既存の信仰生活に満足しないドイツメソジスト派の人々が、カイルを慕って集まってきた。入植者の各家庭には農耕馬一頭が与えられ、食料は共同体内の配給所で毎土曜日に分配され、また衣服は春と秋に支給という具合に、ベセル共同体の全ての活動はカイルの計画に従って行われた。彼を慕ってこの共同体員となった人々【カイルイツ Keilites またはベセライツ Bethelites と呼ばれる】は従順に与えられた職務を遂行し、1847年頃にはこの共同体は500人ほどに達し、幾つかの小共同体が誕生した。<sup>11)</sup> 共同生活を通してキリストの後をたどることが最善の信仰の証しであると信じた彼らの生活形態では、競争よりも協力・融和が強調され、共通の理想を優先し個人の望みを捨てることが必要とされた。

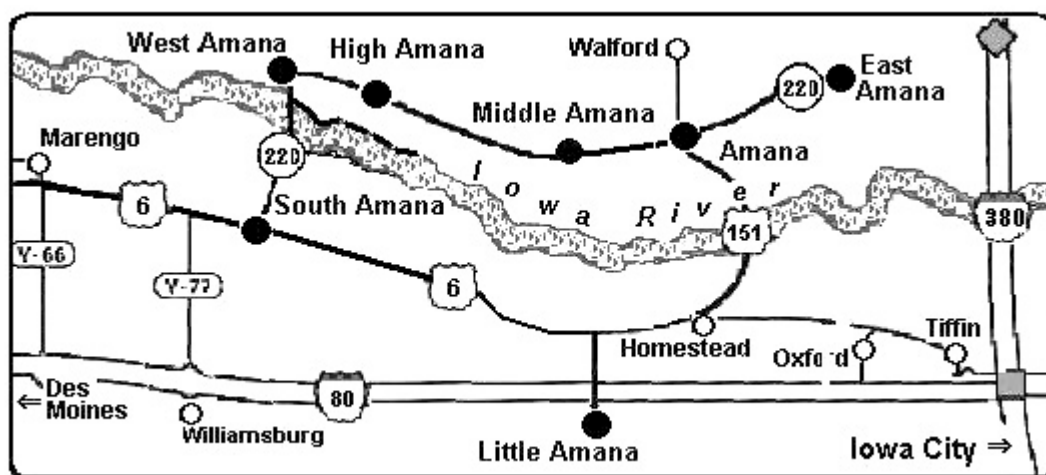
1855年、指導者カイルとともに新たな入植地を西方に求め、75名のベセル会員が荷馬車25台で、オレゴン街道を進んで行った。彼らはカイルの娘の名をとって、ウィルマッテ渓谷 Willamette Valley<sup>12)</sup>に「オーロラ Aurora」〔ポートランド南方29マイルに位置する〕と呼ぶ開拓村を建設した。1867年暮、ベセル共同体を旅立った最後の幌馬車隊が到着、オーロラ共同体は600名ほどの開拓村となった。1860年代以来、オレゴン・カルフォルニア鉄道【後にノーザンパシフィック鉄道に吸収される】の利用客に役立つよう、一部の会員たちは共同でホテル経営に乗り出し、宿泊と食事のサービスで生計を立てた。1877年にカイルが亡くなると、この共同体を離れる人も出はじめ、残った人々は共同体を存続させるか否かの決断をせまられ、1883年に「オーロラ共同体」は解散した。<sup>13)</sup>

#### 1.5. アマナ共同体

1800年代前半には、個人的な「神からの啓示」という信仰の体験を重視する多くのキリスト教小宗派がドイツ各地にも生まれていった。そのひとつが「真啓示会 Gemeinde der wahren Inspiration」、後に「アマナ信仰共同体 Die Amana Glaubensgemeinschaft」と呼ばれるキリスト教小宗派の信仰共

同体である。1820年頃からクリスチャン・メッツ (Christian Metz:1794 - 1864)<sup>14)</sup> は、宗教に比較的寛容なヘッセン・ダルムシュタット公国で、彼を慕ってスイス南部やアルザス地区からやって来た1000人ほどの志を同じくする人々と、1840年頃には耕地を借り共産分配主義の共同体を運営していた。だが、彼らは度重なる天候異変による凶作と収益減少のため、新しい土地を求めアメリカ移住を決意した。

1842年9月には、この団体の指導者メッツがアメリカ合衆国へ向かい、翌1843年にニューヨーク州北部のパファロー市近郊、セネカ・インディアン族が住む地帯のエベニーザーに土地を購入、1843年から1846年にかけて800名あまりの信徒が同地へ移住、「エベニーザー協会 Ebenezer Society」と呼ばれる共同体が発足した。私有財産を禁じ、共同農場での作物栽培、共同工房での物品生産、利益は公平分配する集団生活を始め、日常言語はドイツ語であった。この考えに同調する人々が増加し、1854年11月、アイオワ川流域に新たな土地を購入した【下図参照】。こうして1855年初め、水が豊富で農業に適し、また建築資材の「焼きレンガ」生産に適した上質の粘土が採れるアマナ地区に、最初の開拓共同村が誕生した。次第にアマナ地区移り住む人々が増え、6つの村落を有するほどになった。どの村にも農業振興管理組合の施設、教会、学校、家具工房、荷馬車製造工房、紡績・染色工房、水車動力による製粉所などが整備された。各村の教会で毎朝夕、ドイツ語による礼拝が行われていた。だがアメリカ合衆国が不況に喘いでいた1920年頃から、アマナ共同体の人々は生産物を外部の人々に売ることが難しくなり、共同体を去る人々も出た。アマナ地区に残った人々は農業経営共同体を再編成し、1932年6月に州政府の認可を受け営利独立生産団体として様々な製造分野に手を広げた。なかでも電気冷蔵庫の製造ではアメリカ国中でその名が知られている。1960年代にアマナ地区の各協会では、ドイツ語による説教のほかに英語による説教も行われるようになった。現在アマナ地区は観光地として知られている。



## 2. 「ラテン語を話す農民たち」

1830年代初めから1850年頃にかけて、イリノイ州セントクレア郡 (St. Clair County) のベレヴィレ Belleville〔ミズーリ州セントルイスからミシシッピ川を越え、南東約15マイルの地点〕、ミズーリ州ワレン郡 (Warren County) のドウゾー Dutzow〔ミズーリ州セントルイス西方約56マイルの地点、ミズーリ川右岸に位置する〕、オハイオ州北部のウッド郡 (Wood County)、ウィシコンシン州のウォータータウン Watertown やシェボイガン Sheboygan 周辺、さらにテキサス州南部地区に「ラテン語の文献が読めるほど」高い教育を受け、ドイツの大学を卒業した数多くの若い人々が農業に勤む決意で入植した。いわゆる「ラティン・ファーマーズ Latin Farmers」と呼ばれる青年たちである。彼らの多くは、失敗に終わった「ドイツ3月革命」の前後にアメリカに政治亡命したいいわゆる「48年組」に属する知識人でもある。この「ラティン・ファーマーズ Latin Farmers」という名称は彼らが入植した隣人のアメリカ人が使い始めたと言われている。

### 2.1. イリノイ州、セントクレア郡ベレヴィレ地区

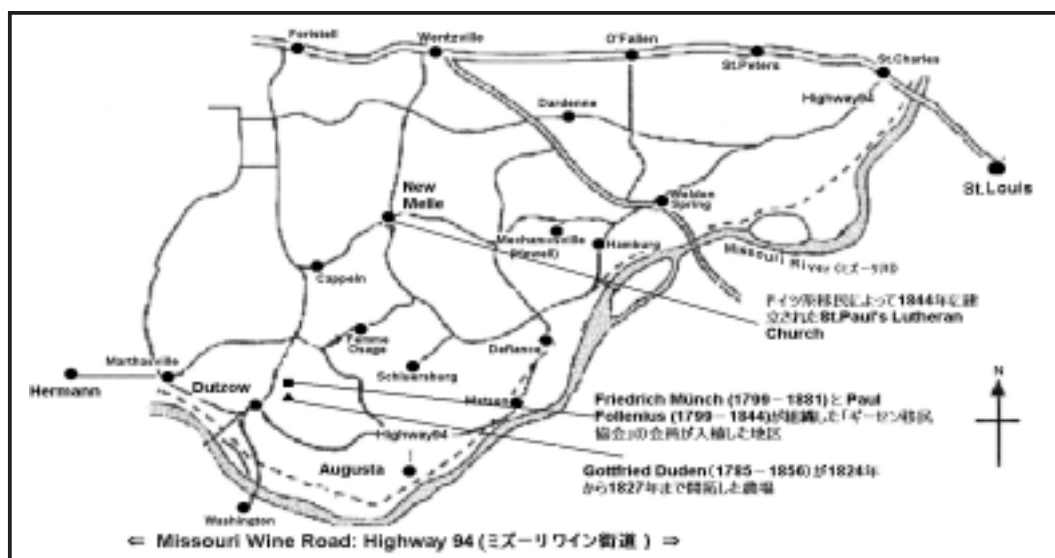
フランス移民によって開拓が始まったが、1832年頃から、グスタフ・ケルナー (Gustav Ph. Körner:1809 - 1896)、ゲオルグ・エンゲルマン (Theodore Engelmann:1809 - 1884)、フリードリッヒ・ヘッカー (Friedrich Hecker:1811 - 1881) など、ドイツ各地でもその名が知られていた人々<sup>15)</sup>が続々と入植、しだいに重要なドイツ系移民の中心地区として発展していったのがイリノイ州、セントクレア郡のベレヴィレ Belleville である。周辺のドイツ系移民の開拓地メカニックスバーグ Mechanicsburg やターキーヒル Turkey Hill を含めると、1840年頃には住民の90%がドイツ出身で、しかも開拓者の多くが大学出の知識人であった。彼らは自国の文化をどのようにして移植するかに奔走、1836年にはエンゲルマンやケルナーなどが音頭をとり、イリノイ州初の「ベレヴィレ公立図書館 Belleville Public Library」を開館させた。この建物は知的なドイツ系移民たちの文芸協会や合唱団などの文化活動にも用いられ、1864年、「ベレヴィレ音楽協会 The Belleville Philharmonic musical society」を母胎として、現在もなお活動を続けるイリノイ州で2番目に古い交響楽団が発足した。エンゲルマンは1844年、この地区に居住するドイツ系移民のために「ベレヴィレ・ベオバハター Belleville Beobachter」紙を、1849年には「ベレヴィレ・ツァイトUNG Belleville Zeitung」というドイツ語新聞の編集発行を開始した。1850年に市制が引かれ、最初の市長に選ばれたのはドイツ系移民テオドール・クラフト (Theodor J Krafft : 生没年不詳) で、1874年頃には12000人ほどの住民を抱えていた。この地区の5つの新聞のうち3紙〔上述の新聞を含め〕がドイツ語新聞であった。<sup>16)</sup>

ベレヴィレ地区では、1920年代までドイツ語が公の場で話され、また学校や教会でも用いられていたが、他のアメリカの諸都市と同様、「反ドイツ人感情」の高まりのなかで、ドイツ語は用いられなくなってしまった。

## 2.2. ミズーリ州ドウゾー地区

1834年、フリードリヒ・ミュンチ (Friedrich Münch:1779 - 1881)<sup>7)</sup> とパウル・フォレン (Paul Follen:1799 - 1844) が創設した「ギーセン移民協会」によって送り込まれた人々が入植したのが、ミズーリ州ワレン郡のドウゾー Dutzow 地区である。この地区は、かつてドゥーデン (Gottfried Duden:1785 - 1856) が数年住み、その農業体験を本にまとめてドイツで出版し、ドイツ人の「移民熱」を煽った場所でもあった。<sup>18)</sup>

だがかつてのドゥーデンの農場付近に開拓地を購入し、理想のドイツ人共同体を建設しようと欲したフォレンやミュンチの計画はそう上手くは進展しなかった。当初「ギーセン移民協会」が計画したワレン郡の開拓地に入植した人の数は予想に反して少なく、大都市セントルイスに留まって職を得ようとした会員たちが続出した。理想のドイツ人共同体を建設しようとした「ギーセン移民協会」の計画が失敗した理由は、開拓者として最初予想される厳しい生活条件に対する入植者らの無知だけではなく、彼らの多くが農耕作業の未経験者であったことにとどまらず、あまりにも傑出した個性的な人々が多く、前述の「宗教的共同体」と比べると、同じ目標に向かって共同体を維持することができなかったことによる。ミュンチはブドウ栽培とワイン製造の専門技術者であり、また作家として講演者として多くの本を執筆した人である。とくに『アメリカのブドウ栽培法』<sup>19)</sup>と題する彼の出版物は版を重ね広く読まれた。ミュンチの弟ゲオルグ (Georg Münch:1801 - 1878) はミズーリ州のオーグスタ Augusta〔ドウゾーから約13マイル東に位置する〕地区で、大規模なワイン畑の耕作に成功した。現在では、「ミズーリのワイン街道 Missouri Wine Road」として知られる良質のワインの産地である。アメリカ産のワイン生産地 カルフォルニアワイン、オレゴンワイン、ヴァージニアワインなどがほとんどすべてドイツ系移民の汗の結晶であることはあまり知られていない。





2.3. テキサス地区

1845年から1860年にかけて、ドイツからの自由思想家<sup>20)</sup>たちも「テキサス丘陵地区」へ移住してきた。彼らは「マインツ貴族協会」<sup>21)</sup>によって組織的に送り込まれたドイツの農民と異なり、自由と民主主義を情熱的に提唱し、独裁的な君主国家と既存宗教から自由を求めてやって来た人々で、彼らのほとんどが大学で学問を修めた「ラテン語を理解する」高い教養を身につけていた。その一部が、1848年に「友情、自由、平等 friendship, freedom, equality」を合言葉に、ドイツのダルムシュタットから外科医フェルディナンド・フォン・ヘルフ (Ferdinand von Herff:1820 - 1912) が組織した「40人協会 Society for Forty」の若者33名【その大半はギーゼン大学とハイデルベルグ大学の学生、残りは専門職人】である。彼らは「マインツ貴族協会」から地権を譲り受け、未開の地に理想郷を作る決意でガルベストーン港に上陸、その後ララノ郡にベッティーナ Bettina、オースティン郡 (Austin County) にミルハイム Millheim、ワシントン郡 (Washington County) にラティウム Latium、ケンダル郡 (Kendal County) にシスターダーレ Sisterdale<sup>22)</sup>、トウスクルム Tusculum 【トウスクルムは現在のボルネ Boerne の発展の基点となった】、ルッケンバック Luckenbach<sup>23)</sup>などの「ラテン語 (を理解する人たち) の居住地 Latin Settlement」開拓地 (下図参照) を誕生させた。これらの入植地で試みられたユートピア的共同体建設に従事したのは、自由と民主主義を情熱的に提唱し、独裁的な君主国家と既存宗教から自由を求めた人々で、アメリカの独立宣言のなかで謳いあげた博愛主義思想に憧憬の念を抱いていた。彼らが敬愛する女流文人ベッティーナ・フォン・アルニム (Bettina von Arnim:1785 - 1859)<sup>24)</sup>に因み、ベッティーナ Bettina と名づけた共同開拓地<sup>25)</sup>



は、農耕作業に何の経験もない会員と会員間の対立により、わずか18ヶ月で破綻し解散、現在の地図からその名は消え去ったが、もっとも発展をとげたのはシスターダーレ〔ボルネ Boerne の北方約13マイルに位置する〕であった。南北戦争直前のシスターダーレは、テキサス・ドイツ人たちの奴隷制度廃止論者の拠点でもあった。住民の数は1884年には約150人、1914年には25人に減少し、1990年の統計では60人ほどの住民となっている。

約1000人のほど自由思想家のうち、テキサスの文化発展に貢献した数百人は残された文献から、その名前が確認されている。外科医フェルディナンド・フォン・ヘルフは後にサンアントニオ San Antonio で活躍し91歳の高齢で世を去り、カール・アドルフ・ドウエー (Carl Adolph Douai:1819 - 1888) は「サンアントニオ男性合唱協会」の創立会員のひとりで、また1853年にはドイツ語新聞「サンアントニオ・ツァイトUNG San Antonio Zeitung」紙を創刊し、テキサス州初の幼稚園の設立にも尽力した。<sup>26)</sup> その他、一時期シスターダーレで農耕生活に従事した歴史家エルンスト・カップ (Ernst Kapp:1808 - 1896)、1851年にハンブルクからテキサスに亡命し、「サンアントニオ・エクスプレス紙 San Antonio Express」の発行を手がけたアウグスト・ジーマリング (August Siemering:1828 - 1883) 後にカルフォルニア州ソノマ Sonoma 地区でブドウ栽培に従事したユリウス・ドゥレッセル (Julius Dresel:1816 - 1912) などの著名人が彼らの理想を追求していた。

### 3. 結びにかえて

ドイツ系移民による様々なユートピア的共同体の試みは、ドイツ系アメリカ人の歴史の、ほんの一頁にしか過ぎない。当研究ノートで記した様々な共同体の多くは、現在では観光地となっており、そのいくつかの地区にはドイツ系移民の子孫が現在も暮らしている。テキサス地区のドイツ系移民による開拓地区の一部では、今なおドイツ語が用いられており、テキサス州立大学オースティン校の研究チームにより、目下その実態調査が進められている。だがその他の地区では、ドイツ語は文献として残っているか、観光客目当ての商品に印刷されているに過ぎない。しかしアメリカ文化の礎石のひとつである「ドイツ系移民の力」が消え去ることはないであろう。

- 1 1800年代のアメリカでは、ドイツ系移民による生活共同体のほかにも、思想的、宗教的、経済的なユートピア共同体が数多く誕生している。たとえば、スウェーデン系移民エリック・ヤンソン Eric Janson (1808 - 1850) による「ビショップヒル Bishop Hill」(イリノイ州、1846年から1860年まで)、アメリカ人ジョン・ハンブリー・ノエス (Jon Humphery Noyes:1811 - ?) による「オネイダ共同体 Oneida」(コネチカット州、ニューヨーク州など。1848年から1881年まで) などである。このような共同体は、強烈な個性を持つカリスマの指導者に従う従順な人々によって組織されていたため、モルモン教徒やシェーカー教徒【The Shakers】は例外として、そのほとんどは指導者が亡くなると解散していった。因みにボストンの「超越論者」 ジョージ・リプリー (George Ripley:1802 - 1880) や

マーガレット・フラー (Sarah Margaret Fuller [Ossoli]:1810 - 1850)、ナサニエル・ホーソン (Nathaniel Hawthorne:1804 - 1864) らによるマサチューセッツ州ウエスト・ロックベリーに設けられた「ブルック農場 Brook Farm (1840年から1846年まで)」、アモス・ブロンソン・アルコット (Bronson Alcott:1799 - 1888) による「フルーツランド Fruitlands (1843年から1844年まで)」 たちも、自分たちの理想を追求すべくユートピア的共同体生活を実践した。ナサニエル・ホーソンは「ブルック農場」の体験をもとに1852年、小説『ブライズデイル The Blithedale Romance』を書き上げた。

- 2 「ドイツ系移民によるユートピア共同体」を体系的に論じた研究は論者の知る限りない。都留重人監修 (思想の科学研究会編)・『アメリカ思想史・第二巻』(日本評論社版・昭和25〔1950〕年)のなかでも、ドイツ系移民の活躍は数頁にわたって紹介されているだけである。アメリカの出版物でもっともよく論じられているのは Alice F. Tyler (注14参照) の書である。だがこの書のなかでも、当研究ノードで紹介する「ラティン・ファーマーズ Latin Farmers」については論及されていない。
- 3 Tunker, Dunkard とも言われる。これはドイツ語の動詞〔tunken 水に浸す〕に由来する。「再洗礼派」と呼ばれる宗派に属するこの人々は、各自の信仰心を確認するため、宗教儀式として「水に足を浸す」(その昔は聖書に則り「川に体を浸した」) ことを行う。
- 4 現在のレディング市郊外北西20マイル、フィラデルフィア北西約60マイルの地点。
- 5 Oswald Seidensticker:Ephrata, eine amerikanische Klostersgeschichte. In: Der Deutsche Pionier. 14.Jg. H.8., 1882., S.312.
- 6 この修道院で歌われていた礼拝歌については、トーマス・マンの長編小説『ファウスト博士・一友人によって物語られたドイツの作曲家アドリアン・レーヴァークューンの生涯』〔Thomas Mann: Doktor Faustus. Das Leben des deutschen Tonsetzers Adrian Leverkühn erzählt von einem Freunde. Stockholm: Bermann-Fisher Verlag. 1947.〕のなかで詳しく論じられている。ここに円子修平訳の『ファウスト博士』〔『トーマス・マン全集 VI』新潮社、1971年、70頁〕の一部を引用しておく。  
「エフラタの音楽は、とクレツチュマルはわたしに言った、教団外の人々に受け入れられるにはあまりにも異様で、あまりにも奇矯かつ気儘なものでした。〔中略〕合唱の切実な響きは繊細な器楽音楽にそっくりで、聴く人の心に天上の優しさと敬虔とを喚起しました。全体は仮声〔ファルセット〕で歌われ、歌手たちは口も唇も動かさずに、すばらしい音響効果を上げたのでした。つまり、そうすることによって音響は礼拝堂のあまり高くない天井に投げ上げられ、聞き慣れた人間的な歌とは似てもつかず、とにかく従来のだのような賛美歌とも違う数々の音とその天井から降って来て、公衆の頭上に天使のように漂うかのように思われたのです。」
- 7 この長い題名を持つ1747年の礼拝歌集の正式名称は Das Gesäng der einsamen und verlassenen Turteltaube, nemlich der Christlichen Kirche Von einem Friedesamen und nach der stillen Ewigkeit wallenden Pilger. Ephrata, Drucks der Brüderschaft 1747. また『天上の奇蹟』は Das Paradiesische Wunderspiel 1766. この作品に収められた礼拝歌の内54歌は、1730年にバイセルがフィラデルフィアのベンジャミン・フ

ランクリンの印刷工房に依頼し出版した『神の愛歌と栄歌 Göttliche Liebes- und Lobes Gethöne』から再録したと言われている。

- 8 ドイツ語名はヨハン・ペーター・ミュラー (Johann Peter Müller) : 南独カイザーズラウテルン〔北東約9Kmに位置する〕アルゼンボルン Alsenborn 生まれ。ハイデルベルク大学で神学を学び、1730年8月28日にフィラデルフィアにキリスト教長老派の牧師として赴任したが、バイセルの教義に関心を示しエフラタ修道院の会員に理解を示した。
- 9 ラップは、ニューハルモニーを売却するために買い手を探した。これに応じたのは、新しい理想的な共同体を築こうと考えていたロバート・オーエン【ウエールズ生まれ。オーエンは、徹底した「環境論者」で、人間の性格は環境に支配され、それ故に優れた環境があれば、人間の集合としての共同体も秩序ある優れたものとなるという考えを懐いていた】であった。共同体は特定の信仰によって築きあげられるのではない、という点でジョージ・ラップとは違っていた。オーエンは無神論者で、結婚、教会、私有財産は共同体を損ねると考えた。だがオーエンの共同体はわずか2年で解散してしまった。ロバート・オーエンがイギリスに戻った後、長男ロバート・デール・オーエン (Robert Dale Owen:1801 - 1877) はニューハルモニーに留まり、後政治家としてインディアナ州議会議員や合衆国連邦議員として活躍、とくに連邦議員在任中はスミソニアン研究所設立のための法案策定に尽力した。
- 10 ドイツ名はヨハン・アウグスト・ロープリング (Johann August Röbling) 。橋梁工事の専門家としロープリングの名が知られ始めたのが1844年頃からである。1867年、ロープリングはイーストリヴァー川を跨ぎマンハッタン島とブルックリンを結ぶ橋梁建設の総括責任者として、ニューヨークに招聘された。「ブルックリン橋」はロープリングの死後1883年5月24日に完成した。
- 11 Dorf, F. Durnbaugh:Radical Pietism as the Foundation of German-American Communitarian Settlements. In (Edit:E.Reichmann et al. ) Emigration and Settlement Patterns of German Communities in North America. Max Kade German-American Center, 1995. p.41.
- 12 今日、この地方はドイツ系移民が何代にも渡り切り開いた葡萄畑のお陰でオレゴン州随一のワイン産地となっている。
- 13 だが一部の会員たちは共同資産を分配運用し、「オーロラ」の開拓村自体は廃村にはならなかった。一方、「ベセル共同体」も1879年には解散したが、富みの公平分配を行う方針はその後35年ほど続けられた。
- 14 この共同体の指導者には、他にシュトラスブルク生まれのミヤエル・クラウゼント (Michael Krausent : 生没年不詳) とアルザス (現フランス領) のライラースヴァイヤー Leilerssweiler 生まれのバルバラ・ハイネマン (Barbara Heinemann:1795 - 1883) の名が知られている。Alice Flet Tyler:Freedom's Ferment. Phases of American Social History to 1860. Minneapolis:The University of Minnesota Press. 1944. p.130.
- 15 Wilhelm Kaufmann; Die Deutschen im amereikanischen Bürgerkriege. Szessionskrieg 1861 - 1865.

München/Berlin:R.Oldenborg. 1911. S.482には、その数80世帯と記されている。南北戦争が始まるとケルナーはベレヴィレのドイツ系移民の青年たちに呼びかけ「第43イリノイ義勇連隊」を組織し、合衆国連邦軍（北軍）に参加した。共和黨員として活躍したケルナーは、イリノイ州知事代理も務めた。弁護士を営んでいたヘッカーは、1842年、バーデン議会の自由主義派議員に選出され、また「フランクフルト国民議会準備議会」（1848年3月31日から4月8日）では共和制政体の統一ドイツ国建設を提案。1848年4月20日に、共和国としての統一ドイツを望む「バーデン蜂起」で約800名の義勇団を率いヘッセン・バーデン両国連合軍（約2000名）とカンデルン Kandern 付近で会戦したが敗退しスイスへ亡命。同年9月、シュトラスブルクへ赴き友人とその後の処理を協議したものの、官憲の国外追放処分を察知しアメリカ亡命を決意、同年10月5日、ニューヨーク港に上陸し、その後イリノイ州ベレヴィレ近郊サマーフィールド Summerfield に農場を購入。農耕作業の時間をぬって各地で政治講演会活動を展開、シンシナティで「体育家協会」を組織。熱烈な共和黨員として大統領選挙ではリンカーンの選挙を支援、1860年シカゴでのドイツ人共和党大会に出席。南北戦争が始まると息子とともに一兵卒として志願、後に大佐に任命され「第24イリノイ歩兵連隊」の指揮官となるが上官と対立し除隊した。自己資金を用いて「第82イリノイ歩兵連隊」を組織し再び参戦したが、1863年5月1日～4日のシャンセローヴィル〔Chancellorsville ヴァージニア州リッチモンド市北方、フェレデリックスバーグ市郊外〕の戦場で負傷し除隊。1873年ドイツへ里帰りをし、マンハイムでは熱烈な歓迎を受け、留まるように懇願されるがこれを断り1873年10月アメリカへ戻る。1875年から80年まで執筆・講演活動を展開。1884年3月24日、69歳でサマーフィールドの農場で命を引き取った。

- 16 John A.Hawgood:The Tragedy of German-America. The Germans in the United States of America during the Nineteenth Century- and After. NY/London:G.P.Puttman's Sons, 1940 ( Reprinted New York:Arno Press & The New York Times, 1970 ) p.127.
- 17 牧師の息子としてヘッセン公国のニーダーゲミュンデン Niedergemuenden に生まれたミュンチは、フォレン家の3兄弟、アウグスト ( August Adolf Follen:1794 - 1855 )、カール ( Karl Theodor Chr. Follen: 1796 - 1840 )、パウルとともに、ギーゼン大学に愛国的学生団体「ギーゼン黒衣団」を組織した。1832年のハンバッハ祭の後、自由主義者に対する官憲の弾圧が厳しくなるなかミュンチとパウルは【Paul Follenius パウルは古いラテン語の氏名フォレニウスを用いていた。長兄アウグストはスイスへ、次兄カールはアメリカへ亡命】「自由を望む若者」をアメリカへ移民させる計画を立て、1833年に「ギーゼン移民協会 Gießener Auswanderung-Verein」を創立した。彼らの目標は、アメリカ国内に「理想的なドイツ人のための自治開拓地区の建設」をミズーリ州のワレン郡に試み、このような開拓地区が近い将来、大小の領主国に分断された祖国ドイツを革命によって統一するための起爆剤となることを夢見ていた。
- 18 Gottfried Duden:Bericht über eine Reise nach den westlichen Staaten Nordamerikas und einen mehrjährigen Aufenthalt am Missouri. Elberfeld.1829. この本は1890年に英語に翻訳された。〔 James W.Goodrich:

“ Report on a journey to the Western States of North America and a stay of several years along the Missouri ”,  
Columbia:State Historical Society of Missouri, 1980. ]

- 19 Friedrich Münch:Amerikanische Weinbauschule. Kurze, doch hinreichend ausführliche Anleitung zur Anlegung des Weinberges, zur Behandlung der Reben und zur Gewinnung des Weines in Nordamerika. St.Louis, 1859. この本は1865年に英訳版が出版され、またドイツ語版も1867年には第2版が出版された〔文献入手困難なため未読〕。
- 20 既存の信仰体系によらず、人間の理性と自由への信頼を強く要求した「自由思想家 Freethinker」の動きは、ドイツではすでに1740年から53年頃、「啓蒙時代」として知られるフリードリッヒ大王統治の間にその活動が始まっていた。彼らは、知識を組織化するために百科事典を生み出し、科学的な実証研究と哲学の徹底追究が人間本性の解明に不可欠だと確信し、教育、法律、哲学と政治で徹底的に問題を探究した。
- 21 1842年、テキサスにドイツ人を移民として送り込み、開拓村を建設し、あわせてアメリカの豊かな産物をドイツに輸入販売することを目的に、ヘッセン・ナッサウ公国のビーブリッヒ Biebrich に25名の地方貴族たちが会合を持った。この事業で富と名声を得ることを期待した貴族たちは資金を出しあい、テキサスへの移民促進を計る「マインツ貴族協会 MainzerAdelsverein」【正式名称は「テキサスのドイツ移住者保護協会 Verein zum Schutze Deutscher Einwanderer in Texas」】を結成、協会会長にゾルムス・ブラウンフェルス公家のカール王子 (Prince Carl of Solms-Braunfels:1812 - 1875) を選出した。同協会は1840年代始め頃から仕事に着手したが、1844年末、カールスハーファエン Carlshafen【後にインディアンポイント、Indian Point からインディアノラ Indianola と名を変える】に到着した最初の移民団には、物資補給用倉庫が建てられていただけで、彼らが一時的に休養する仮設テントしか用意されておらず、カール王子が移民団ために開拓地【グアダルーペ Guadalupe 川岸に1,300エーカーの荒地】を最終決定したのは1845年3月14日であった。この開拓地はニューブラウンフェルス New Braunfels【カール王子の所領地の Braunfels に因む：ドイツ連邦共和国ヘッセン州、ギーセン西方約40Kmに位置する】と命名された。翌1846年5月8日、ニューブラウンフェルスから2週間かけ、北西へ向かった百数十名のドイツ系移民が開拓定住したのが、プロイセン公国のフリードリッヒ王子に敬意を表し名づけられたフレデリックスバーグ Fredericksburg である。
- 22 現在、ミルハイム、シスターダーレにはそれぞれ100人ほどの住民が暮らしている。これは確かに大変な過疎地ではあるが、一農家あたりの所有面積がわが国の数千倍の広さであることに注意する必要がある。農道沿いの表札から家まで車で走っても数十分もかかる場合もある。
- 23 フレデリックスバーグから東南へ車で少し走った場所。1886年に開設された雑貨屋兼郵便局が残っているが、ほんの数人が住んでいるにすぎない。カントリーミュージック「ルッケンバック、テキサスに來い"Come to Luckenbach, Texas"」Willie Nelson と Waylon Jennings によるレコードがヒットしたことでも有名な場所。

- 24 ドイツ後期ロマン派の作家クレメンス・ブレンターノ (Clemens Brentano:1778 - 1842) の妹。1811年、詩人アキム・フォン・アルニム (Achim von Arnim:1781 - 1831) と結婚、数多くの書簡形式の文学作品を著す他、社会政治問題にも関心を示し、とくに女性の権利と社会的地位向上に活躍した。
- 25 Andreas von Reichstein:German Pioneers on the American Frontier. The Wagners in Texas and Illinois. Denton (Tx)University of North Texas Press. 2001. p.62. 同著者〔Andreas von Reichstein〕は別の箇所〔p.59〕で、このベッティーナ地区は「1663年から1860年の間にアメリカで誕生した130あまりのあらゆる種類の『理想的・ユートピア共同体』としては124番目」と記している。
- 26 アルテンベルク〔Altenburg ライプツヒ南方約40Kmに位置する〕に生まれ、ライプツヒ大学を卒業後、1852年にテキサス州ニューブラウンフェルス New Braunfels に入植。しばらく教師をした後、サンアントニオで新聞編集に携わるが、南北戦争前から「奴隷制度廃止」を紙面で活発に展開したため、対抗勢力から反感を買い、1855年には彼の新聞社は襲撃され、その後幾度も投獄された。後年ボストンに居を構え幼児教育運動に従事、さらにニューヨークに移り住み「ニューヨーク・デモクラート New York Demokrat」紙の編集者として活躍した。

#### 主要参考文献

Burnett, Robyn/Luebbering, Ken:

German Settlement in Missouri. New Land, Old Ways. University of Missouri Press, 1984.

Fritsch, W.A.:

New-Harmony, eine deutsche Niederlassung in Indiana. In:Der Deutsche Pionier. 1.Jg.,H.10.1869. S.295-300.

Haas, Oscar:

History of New Braunfels and Comal County, Texas 1844-1946. San Antonio:Burke Publishing Co. (4th Printing 1996)

Nordhoff, Charles:

American Utopias. Originally published as Communistic Societies of the United States. (Forword & Afterword by Robert S.Fogerty) Stockbridge (MA.) Berksher House Publishers. 1993.

Polt, H.K.:

The Rappists and New Harmony, Indiana. In:The American-German Review, Piladelphia:Carl Schurz Memorial Foundation., 1943. (Vol.10.) p.17-20.

Reichstein, Andreas:

German Pioneers on the American Frontier. The Wagners in Texas and Illinois.,University of North Texas Press, 2001.